

赤石山脈とリニアトンネル

TENSION 井上好司

昨年(2017年)8月、リニア新幹線反対派の人の話を聞きに長野県の大鹿村に行った。大鹿村に詳しい知人にあらかじめ何人かの適任者を紹介してもらっていたが、運よくその中のお一人からじっくりお話を伺うことができた。

彼はいわゆる学者ではなく独学で地質学を学び大鹿村立の中央構造線博物館の学芸員を務めている。あくまで地質学の見地から中央構造線の話、赤石山脈の地質の特異性について講義を受けた。

実はその時聴いた内容を帰阪してからレポートにまとめようとしたのだが、全く書けないで困っていた。おそらくその時は理解しているつもりでいたのだがほとんど分かっていなかったということだろう。書けないまま半年が過ぎようとしている。

聴かせて頂いた内容を大阪の仲間たちに伝えたいんだと言って話を聞かせてもらったのにその約束を果たせないままで困っていたところ、日経新聞系の Web サイトで僕にとって誠にありがたい記事を見つけた。記者がその学芸員氏の話の聴いてまとめた文章があったのだ。

タイトルは「リニア新幹線の南アルプスルートは安全か」、サブタイトル「地質の専門家が斜面崩落の危険性を指摘」。2009年の記事である。この記事はタイトルで検索すれば捜せるので興味の向く方は是非ご一読を。

この記事を読んでもまだちんぷんかんぷんなのだが、要は赤石山脈は非常に特異な地質なので掘削工事中であれ完成後であれ**斜面崩落の危険性**がとても高い。その対策について JR 東海の報告書には説明がないということのようだ。

僕が聞いた時には彼は JR 東海の職員たちはこのことを本当に理解しているのかどうか分からない、ただ施工業者である鹿島建設はよく分かっていたと言っていた。

昨年(2017年)末大鹿村にとっては大動脈に当たる道路で JR 東海のトンネル工事が崩落事故を起こした。全面通行止めになって年末年始を迎えた大鹿村民や観光客の足に影響を及ぼし甚大な損害を与えることになった。つまり 2009 年にこの記事で指摘されたことが全く生かされていなかったということだ。この事故については「リニア新幹線を考える登山者の会」が運営する「南アルプスは大丈夫？」というブログの 2018 年 1 月 11 日の記事に詳しい。

崩落事故はこの 1 件だけではなく、大鹿村のリニアトンネル掘削地でこの 1 年ほどの間に 4 回の落石・土砂崩れを起こしており JR 東海も右往左往しているようだ。

リニア新幹線の問題点

リニア新幹線の赤石山脈トンネル工事に関する問題点はこの「**斜面崩落の危険性**」だけではない。

「膨大な残土処理」。

いったいどこに捨て置くのか？

どうやって運ぶのか？

おおよそ膨大な残土は谷合を埋め立てるように置かれるそうだが、熊本地震で土石流の甚大な被害をみてどこの村や町も残土に対して拒否反応を起こし、JR 東海が計画した残土処理地のほぼすべての地権者が反対、計画の中止に追い込まれている。

「水涸れ」

山にトンネルを掘れば水脈を切ることになるのは必至。水系も変わる。大井川の水量が相当量減ることは JR 東海が予測している。飲料水を大井川に頼っている静岡県では死活問題となっている。水涸れは各地で起こるだろうがほとんど予測できない。箕面森町へのアクセスを作るために新御堂筋を北に延長する「箕面トンネル」を掘って箕面の滝への水脈を切って箕面の滝が水涸れしてしまった。今の箕面の滝はポンプで汲み上げた水を落としている。たぶん大阪府民の税金を使って。

トンネル工事以外にも問題が多々ある。リニアが発生させる強力な電磁波による乗客の健康被害。リニアに供給するための強力な高圧送電線の電磁波による地域住民の健康被害。ウランが含まれる残土による健康被害。難工事と膨大な建設費 etc.

反対活動団体

赤石山脈のトンネル反対運動をしている団体はビックリするほど数があつて、もちろん僕はすべてを把握している訳ではないが主なところを挙げておく。

(署名活動は各々の団体が行っており、署名したことのある人はいったい自分はどの団体に署名したのか、おそらく分からなくなっているだろう…)

- ・リニア市民ネット (ここは全国規模で支部を持つ。大阪にもある。)
- ・リニア新幹線を考える登山者の会 (日本登山もこれに関わっている)
ブログ : <http://tozansyarinia.seesaa.net/article/431015460.html>
(南アルプスは大丈夫?)
- ・STOP リニアプロジェクト Green Japan (僕には最も硬派な団体に思える)
<https://www.facebook.com/stoplinear.project/>
- ・株式会社ヤマテン (いのくまくんの会社)

昨年8月に大鹿村に行ってお話を聴いた翌日たまたま偶然に「リニア新幹線を考える登山者の会」が大鹿村の公民館で集会を行っていて僕も少しだけ参加してきた。前日の専門的な地質学の見地からの講義を聴いた翌日だったこともあるのだろうが、「僕の遊び場を壊さないで！」レベルの稚拙なイメージを受けた。でも山屋はそのレベルでいいのかも知れない。今はそんなレベルでもいい、反対でなくてもいい、山屋はとにかく関心を持つことが大事と考えている。

「リニア市民ネット・大阪」が主催する勉強会(12回目)が、
2018年2月17日(土)14時～16時半 エル大阪南館 734号室にて行われる。

タイトル:「土地と恵みを忘れた日本人」

今回は水ジャーナリストの橋本淳司さんをお迎えして日本の「水」をめぐる様々な問題についてお話があるそうです。

<https://linearnetosaka.wixsite.com/linearnet-osaka>(リニア市民ネット大阪のHP)

この文章で何点かの問題点を挙げたが、でも本当はもっと大切なことがあるよなあと思うのだ。それを言葉で表現することは僕にとってとても難しいことだけど、リニアの問題だけではない。真摯に山と向き合って山から無償で学んだ事、与えられた事、気付かされた事。山屋はそれらをどう社会に還元するか、未来に生かせるか。そこが試されている。そんな気がしている。

そこをもう少し稚拙に言うと「僕たちは山に登って、山からはいろいろ頂いているのに、自分たちが喜ぶだけで山に何もお返しをしてない。そんなことでいい訳ないよね。」となるのかな。